学校番号	J0324

令和８年度　技術・家庭科

1　技術分野

学年	1	週授業コマ数	1.1	富中授業時数(45 分)	39	標準授業時数(50 分)	35
使用教科書	「技術・家庭（技術分野）」（東京書籍）						
副教材等	実習教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・生活や技術について関心をもち、生活を充実向上するために進んで実践しよう。
・生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造しよう。
・生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けよう。
・生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と技術とのかかわりについて理解しよう。
・ワークショップや演習等を通して考え、友だちを含めた多様な考え方を学び、自分の考えを持ちましょう。また、友だちと協力し合い取り組みましょう。

2　学習の到達目標

(1)　ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して，材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深める。
(2)　生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し，解決策を構想・表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。
(3)　よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する能力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し、創造しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	ガイダンス（５）	1 技術の役割 2 技術の見方・考え方 3 技術と生活・産業 4 技術とエネルギー・環境 5 受け継がれ発展する技術	c: 技術が人間の生活を向上させ、我が国における産業の継承と発展に影響を与えていることに気づき、技術が果たしている役割について関心を示している。 技術が環境問題の原因と解決に深く関わっていることに気づき、技術の進展と環境との関係について関心を示している。			ノートやワークシートの記述 学習に取り組む姿勢や態度

後期	材料と加工に関する技術（３４）	1－1 生活や社会と材料と加工の技術 1－2 材料を利用するための技術 2－1 問題解決の手順 2－2 製作のための技能（木材） 3 これからの材料と加工の技術	a: 切断，切削などに必要な工具や機器を正しい使用方法に基づいて適切に操作することができる。 製作品の構想を等角図及び第三角法などでかき表すことができる。 製作図を基にして，材料取り，部品加工，組立て・接合，仕上げができる。 木材，金属及びプラスチックなどの特徴と利用方法 材料に適した切断，切削などの方法、製作における製作図の必要性 等角図及び第三角法などの見方やかき方 材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響などについて理解している。 b: 製作品の使用目的や使用条件を明確にし、社会的、環境的及び経済的側面などから材料、使いやすさ及び丈夫さなどを比較・検討した上で、製作品やその構成部品の適切な形状と寸法などを決定している。 材料と加工に関する技術の課題を明確にし，社会的，環境的及び経済的側面などから比較・検討するとともに，適切な解決策を見いだしている。 c: 技術が人間の生活を向上させ、我が国における産業の継承と発展に影響を与えていることに気づき、技術が果たしている役割について関心を示している。 省資源が使用者の安全などに配慮して設計・製作しようとしている。 新しい発想を生み出し活用しようとしている。 技術が環境問題の原因と解決に深く関わっていることに気づき、技術の進展と環境との関係について関心を示している。・材料と加工に関する技術の課題を進んで見付け，社会的，環境的及び経済的側面などから比較・検討しようとするとともに，適切な解決策を示そうとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期考査の結果 課題作品 発表 実技テストの結果、等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価 相互評価 等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 実習作品 レポート 発表 自己評価 相互評価 等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

2 家庭分野

学年	1	週授業コマ数	1.1	富中授業時数(45 分)	39	標準授業時数(50 分)	35
使用教科書	「新編　新しい技術・家庭　　家庭分野　自立と共生を目指して」（東京書籍）						
副教材等	実習教材						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

○小学校の家庭科で学習したことを基に内容を発展させ、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造し、実践する教科です。
・生活の自立を目指し、家庭生活に関わる基礎的な知識と技能を身に付けます。
・家族・家庭や地域の生活に関心を持ち、身近な課題を見つけ、解決する方法を考え、実践しましょう。
・地域社会との関わりや、消費生活、環境問題について考えましょう。

2 学習の到達目標

(1) 家族・家庭の基本的な機能について理解を深め，生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それらに係る技能を身につける。
(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなど，これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
(3) 実践的・体験的な学習活動を通して，よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する実践的な態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	**ガイダンス（2）**	・中学校の学習内容と自立と共生を目指す学び	c: 小学校の学習を振り返り，中学校３学年間の見通しを持って学習に取り組もうとしている。			学習状況の観察 ノートやワークシートの記述

	衣服の選択と手入れ（１０）	・衣服と社会生活との関わり ・目的に応じた着用や個性を生かす着用 ・衣服の選択 ・衣服の計画的な活用 ・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ ・日常着の洗濯や手入れの工夫	a: 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。 b: 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課 題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作計画、実習記録表 レポート、発表 自己評価等
	生活を豊かにするために（８）	・作って楽しい布製品	a: 製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。 b: 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。			

後期	**日常食の調理と地域の食文化（7）**	・用途に応じた食品の選択 ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理 ・材料に適した加熱調理の仕方、基本的な日常食の調理 ・地域の食文化、地域の食材を用いた和食の調理 ・日常の１食分の食品の選択と調理計画及び調理の工夫	a: 【知】 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。 材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。 地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。 b: 日常の１食分の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: 家族や地域の人々と協動し、よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理と地域の食文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画、実習記録表 レポート、発表 自己評価等

	調理のための食品の選択と購入（１０）	・食品の選択と購入 ・生鮮食品の特徴 ・加工食品の特徴 ・食品の保存と食中毒の防止	a: 【知】 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。 材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。 地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。 b: 日常の１食分の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理と地域の食文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画、製作計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画、製作計画、実習記録表 レポート、発表 自己評価等

	食生活の課題と実践（2）		b: 【思】食生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、食生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。		学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画、実習記録表 レポート、発表 自己評価等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

令和８年度　技術・家庭科

1　技術分野

学年	2	週授業コマ数	1.1	富中授業時数(45 分)	39	標準授業時数(50 分)	35
使用教科書	「技術・家庭（技術分野）」（東京書籍）						
副教材等	実習教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・生活や技術について関心をもち、生活を充実向上するために進んで実践しよう。
・生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造しよう。
・生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けよう。
・生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と技術とのかかわりについて理解しよう。
・ワークショップや演習等を通して考え、友だちを含めた多様な考え方を学び、自分の考えを持ちましょう。また、友だちと協力し合い取り組みましょう。

2　学習の到達目標

(1)　ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して，材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深める。
(2)　生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し，解決策を構想・表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。
(3)　よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する能力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し、創造しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	**生物育成に関する技術（10）**	1 わたしたちの生活と生物育成 2 生物の育成 3 作物の栽培 4 実習例 7 生物育成に関する技術の評価･活用	a: 生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。 b: 生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価･改善し、表現するなどして課題を解決する能力を身に付けている。 c: よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し、創造しようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期考査の結果 課題作品 発表 実技テストの結果、等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価 相互評価 等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 実習作品 レポート 発表 自己評価 相互評価 等
	エネルギー変換に関する技術（29）	1 わたしたちの生活とエネルギー変換 2 電気エネルギーの利用	a: 機器の点検すべき箇所を見付け，保守点検と事故の防止ができる。 漏電，感電，過熱及び短絡による事故を防止できる。 設計に基づき，安全を踏まえた製作品の組立て・調整や，電気回路の配線及び回路計などを用いた点検ができる。 次のことについての知識を身に付けている。 社会で利用されている機器等における，エネルギーの変換，制御，利用 力や運動を伝達する仕組みの特徴や共通部品 エネルギー変換に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響 社会で利用されている機器等における，エネルギーの変換，制御，利用 機器の構造や電気回路，各部の働き 機器の定期点検の必要性 電気機器の定格表示や安全に関する表示の意味及び許容電流の遵守等，適切な使用方法	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期考査の結果 課題作品 発表 実技テストの結果、等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価 相互評価 等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 実習作品 レポート 発表 自己評価 相互評価 等

後期		3 動力伝達の利用 4 エネルギー変換の実際 5 製作品の構想と設計･製作 6 エネルギー変換に関する技術の評価･活用	組立てや調整に必要な工具や機器の適切な使用方法 b: エネルギー変換に関する技術の課題を明確にし，社会的，環境的及び経済的側面などから比較・検討するとともに，適切な解決策を見いだしている。 製作品の使用目的や使用条件を明確にし，社会的，環境的及び経済的側面などから設計要素を比較・検討した上で，製作品に適したエネルギーの変換方法や力の伝達の仕組み，構造や電気回路などを決定している。 c: エネルギー変換に関する技術の課題を進んで見付け，社会的，環境的及び経済的側面などから比較・検討しようとするとともに，適切な解決策を示そうとしている。 省エネルギーや使用者の安全などに配慮して設計・製作しようとしている。 新しい発想を生み出し活用しようとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

2 家庭分野

学年	2	週授業コマ数	1.1	富中授業時数(45 分)	39	標準授業時数(50 分)	35
使用教科書	「新編　新しい技術・家庭　　家庭分野　自立と共生を目指して」（東京書籍）						
副教材等	実習教材						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

○家庭科の学習は、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造し、実践する教科です。
・生活の自立を目指し、家庭生活に関わる基礎的な知識と技能を身に付けます。
・家族・家庭や地域の生活に関心を持ち、身近な課題を見つけ、解決する方法を考え、実践しましょう。
・環境や社会、経済について総合的に考え、持続可能な社会への課題と向き合いましょう。

2 学習の到達目標

(1) 家族・家庭の基本的な機能について理解を深め，生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それらに係る技能を身につける。
(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなど，これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
(3) 実践的・体験的な学習活動を通して，よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する実践的な態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	**衣服の選択と手入れ（１０）**	・衣服と社会生活との関わり ・目的に応じた着用や個性を生かす着用 ・衣服の選択 ・衣服の計画的な活用 ・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ ・日常着の洗濯や手入れの工夫	a: 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。 b: 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課 題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作計画、実習記録表 レポート、発表 自己評価等
	生活を豊かにするために（８）	・作って楽しい布製品	a: 製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。 b: 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。			

後期	住居の役割と安全な住まい方（7）	・家族の生活と住空間との関わり ・住居の基本的機能 ・家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫	a: 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 b: 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題 を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 実習記録表 レポート、発表 定期考査 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 実習記録表 レポート、発表 自己評価等
	生活の課題と実践（2）	・住生活についての課題と計画　実践、評価	b: 住生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。			

	生活を豊かにするための布を用いた製作（１０）	・作って楽しい布製品 ・持続可能な衣生活を目指して	a: 製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。 b: 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

令和８年度　技術・家庭科

1　技術分野

学年	3	週授業コマ数	0.57	富中授業時数(45 分)	20	標準授業時数(50 分)	17.5
使用教科書	「技術・家庭（技術分野）」（開隆堂出版）						
副教材等	実習教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・生活や技術について関心をもち、生活を充実向上するために進んで実践しよう。
・生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造しよう。
・生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けよう。
・生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と技術とのかかわりについて理解しよう。
・ワークショップや演習等を通して考え、友だちを含めた多様な考え方を学び、自分の考えを持ちましょう。また、友だちと協力し合い取り組みましょう。

2　学習の到達目標

(1)　ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して，材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深める。
(2)　生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し，解決策を構想・表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。
(3)　よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する能力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し、創造しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	**情報に関する技**	ディジタル作品の設計と製作 プログラムによる計測･制御	a: 設計に基づき，適切なソフトウェアを用いて多様なメディアを複合し，表現や発信ができる。 設計に基づき，簡単な計測・制御のプログラムを作成できる。 次のことについての知識を身に	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述

後期	術（20）	情報に関する技術の評価･活用	付けている。 メディアの素材の特徴と利用方法や，適切なソフトウェアを選択し，多様なメディアを複合する方法 計測・制御システムにおける構成や，その中でのプログラムによる情報の処理についての知識 計測・制御システムにおけるインタフェースの必要性についての知識 情報処理の手順についての知識 情報に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響 b: ディジタル作品の使用目的や使用条件を明確にし，社会的，環境的及び経済的側面などからメディアの素材の特徴と利用方法や，適切なソフトウェアなどを比較・検討した上で，作品に適したメディアの種類やディジタル化の方法，複合する方法などを決定している。 計測・制御の目的や条件を明確にし，社会的，環境的及び経済的側面などから情報処理の手順を変更した場合の効果を比較・検討した上で，計測・制御に適した情報処理の手順を決定している。 情報に関する技術の課題を明確にし，社会的，環境的及び経済的側面などから比較・検討するとともに，適切な解決策を見いだしている。 c: 利用者が安心して利用できる作品を設計・制作しようとしている。 新しい発想を生み出し活用しようとしている。 利用者への影響などを考え，プログラム作成しようとしている。 新しい発想を生み出し活用しようとしている。 情報に関する技術の課題を進んで見付け，社会的，環境的及び経済的側面などから比較・検討しようとするとともに，適切な解決策を示そうとしている。	定期考査の結果 課題作品 発表 実技テストの結果、等	レポート、発表 定期考査の結果 自己評価 相互評価 等	実習作品 レポート 発表 自己評価 相互評価 等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

2 家庭分野

学年	3	週授業コマ数	0.57	富中授業時数(45 分)	20	標準授業時数(50 分)	17.5
使用教科書	「新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」（東京書籍）						
副教材等	実習教材						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇家庭科の学習は、家庭生活で必要な知識や技術を身につけることだけではなく、社会の課題と暮らしを結びつけて考え、新たな価値観や行動を生みだすことを目指しています。
・生活の自立を目指し、家庭生活に関わる基礎的な知識と技能を身に付けます。
・家族・家庭や地域の生活に関心を持ち、身近な課題を見つけ、解決する方法を考え、実践しましょう。
・環境や社会、経済について総合的に考え、持続可能な社会への課題と向き合いましょう。

2 学習の到達目標

(1) 家族・家庭の基本的な機能について理解を深め，生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それらに係る技能を身につける。
(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなど，これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
(3) 実践的・体験的な学習活動を通して，よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する実践的な態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	**幼児の生活と家族（１３）**	・幼児の発達と生活の特徴 ・家族の役割 ・幼児の遊びの意義 ・幼児との関わり方 ・幼児との関わり方の工夫	a: 幼児の発達と生活の特徴がわかり、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。 b: 幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 レポート、発表 定期考査 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 レポート、発表 自己評価等
後期	**住居の役割と安全な住まい方（７）**	・家族の生活と住空間との関わり ・住居の基本的機能 ・家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫	a: 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 b: 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題 を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度